

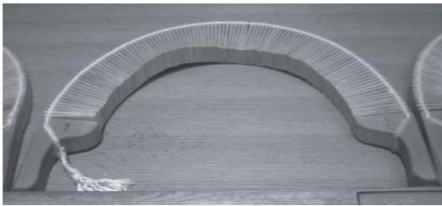
歴博をあるく

# 展示物に触ってみる

広報部会

通常、博物館や美術館では展示物に触ることができません。歴博の総合展示室には「観る」「読む」「聴く」など視覚・聴覚に訴えるものが数多くありますが、中には、「触る」「嗅ぐ」など、触覚や嗅覚で体験できる展示物もあります。展示物に実際に触れてみることで、その展示物に対する興味が増し、いっそう理解が深まります。また、手習いや土器の組立てなどの体験もできます。

## 第2室（びんざさらを鳴らす）



体験用のびんざさらを、優しく、ゆすって鳴らしましょう

## 第3室（𧄨粕を嗅ぐ）



近世後期の農村で多く使われるようになった魚肥のひとつである𧄨粕のにおいを嗅げます  
良いにおいではありません（むしろ悪臭）

## 第3室（棹銅に触る）



近世の代表的な輸出品であった古銀や棹銅に直接触られます

## 第4室（鉦をたたく）



仏壇の鉦を叩けます

他にも、屋久杉など木材のブロックの重さや色を比較する体験展示もあります

## 第6室（銃を持ち上げる）



三八式歩兵銃

明治38年（日露戦争の直後）制式化された  
直径：6.5mm、長さ：1.28m、重さ：3.95kg

歴博では来館者が自由に体験できる場所として第3室に「寺子屋れきはく」のコーナーが、第6室の隣に「たいけんれきはく」の部屋があります。

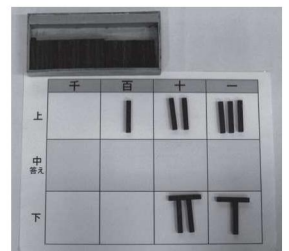
寺子屋体験の主対象者は小学校高学年以上ですが、幼児やリピーターも体験できるよう4種類の手習い帖のほか算木など各種の教材が用意されています。

「たいけんれきはく」は、幼児から小学校低学年を主対象者にしてはいますが、縄文土器の組立てや着物のたたみ方など多彩な学習キットがあって、大人でも十分に楽しめます。

## 「寺子屋れきはく」



手習い帖 - その1



歴博バージョンの算盤

## 「たいけんれきはく」



土器の組立て



着物のたたみ方